

第2章 第二次読書計画で推進する4つの重点項目

第一次読書計画の「4つの重点項目」と「目標」を受け継ぐこととします。目標には「成果指標」を設定し、進捗状況を把握しながら、「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」の基本理念の実現に向け、読書活動を推進します。

1 4つの重点項目

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」の基本理念の実現



重点項目1 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進

子どもの成長や発達段階に合わせた読書活動及び本を薦め合うなど読書への関心を高める取組の充実に、家庭・地域・学校を通じて取り組むこととし、その内容を示しています。

重点項目2 成人の読書活動の推進と担い手の拡大

成人は、地域における自主的な読書活動の主体であるとともに、市民同士が協働して行う読書活動を推進する取組の担い手であり、子どもと同様に積極的に支援する対象です。より多くの人担い手として気軽に活動に参画でき、主体として活動を楽しめるような機会が地域に増えていくよう取り組むべき内容を示しています。

重点項目3 読書活動の拠点の強化と連携

図書館が地域の情報拠点としての機能を強化するとともに、区役所と図書館が中心となって、地区センターなどの市民にとって身近な読書関連施設との積極的な連携と、市民の読書活動を推進する取組を支え、情報提供機能を強化するための取組内容を示しています。

重点項目4 区の地域性に応じた読書活動の推進

各区の目標に基づき、読書活動を推進します。推進にあたっては市民と行政が協働して読書活動推進に取り組むための考え方と、取り組むべき内容を示しています。

(注)本計画における「子ども」とは、概ね18歳までをさしてあり、それ以上の世代を便宜的に「成人」としています。

2 目標と成果指標

重点項目ごとに目標及び成果指標を設定し、進捗状況を把握しながら、読書活動の推進を図ります。成果指標は、毎年度検証・公表し、次年度以降の取組に活かします。

目標	成果指標	平成30年度末 (当初値)	令和5年度末 (目標値)	
重点項目1 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進				
子どもの 読書習慣の 定着	①小中学校の学校図書館 の利活用の促進 (a 来館者数(平均値)、b 貸出冊数(平均値)、c学 校図書館が好きと答えた 児童生徒の割合)	a	11,350人	11,500人
		b	7,565冊	7,600冊
		c	70.6%	72.0%
	②1日のうち読書を「してい る」と回答した小中学生 の割合	小	70.5%	71.0%
中		54.9%	55.0%	
重点項目2 成人の読書活動の推進と担い手の拡大				
成人の 読書活動の 推進	図書館における貸出冊数 (市立図書館での貸出及び 広域相互利用による他都 市での横浜市民への貸出 も含む)	1,096万冊	1,100万冊	
読書活動 推進の担い手の 拡大	読み聞かせ、朗読等ボラン ティアの活動者延べ人数 (a 図書館と連携した事業 の延べ人数・b市民利用施 設*における1館あたり平均 人数)	a	4,072人	4,200人
		b	26.6人／館	30.1人／館
重点項目3 読書活動の拠点の強化と連携				
地域や学校との 連携による 図書活用の推進	図書館でのグループ貸出、 学校向け貸出の合計冊数	95,404冊	99,000冊	
重点項目4 区の地域性に 応じた読書活動の推進				
区の地域性に 応じた 読書活動の推進	区の活動目標の推進	引き続き推進		

※ 市民利用施設

地区センター、コミュニティハウ
ス、社会教育コーナー^{*32}、地域
子育て支援拠点、地域ケアプラ
ザ

*32 社会教育コーナー

市民の生涯学習活動やそのた
めの研修活動、ボランティア活動
などの場として、また、生涯学習
に関する情報提供や交流の場と
して設置された施設。